

(倫理様式 2-2-1)

脳卒中片麻痺患者の重症度別に見た ADL(日常生活動作)回復に至るまでの日数

1. 研究の対象

2020年4月以降に当院回復期リハビリテーション病棟に入院し、2022年3月までに退院した初発の脳卒中片麻痺患者全症例

2. 研究目的・方法

回復期リハビリテーション病棟では、患者の効率的なADL(日常生活動作)向上が求められています。患者のADLの自立度を数値化する評価法として、Functional Independence Measure (FIM)が推奨されており、当院では入院から退院まで1週間ごとにFIMを用いてADLを評価しています。当院先行研究において、FIMの点数改善までにかかる日数の要因を分析した結果、若年で発症から回復期リハビリテーション病棟入棟までの日数が短い方が、短期間でADL能力の向上を期待できることが示唆されています。しかし、これらFIMの点数改善までにかかる日数に関して、重症度による違いについては十分に議論されていません。

今回、回復期リハビリテーション病棟入院から退院まで1週間ごとのFIMや麻痺の程度、入院日数などを解析したデータを活用し、脳卒中を発症した患者のADL向上までの日数やその要因を明らかにし、ADL向上を図るための一助となることを目指していきます。

美原記念病院リハビリテーション部では、入院時と退院時に加え、週に1回リハビリテーション担当者が身体機能評価や生活状況の評価を行っています。今回の調査には、このデータに加え、年齢、発症から回復期リハビリテーション病棟入棟までの日数、回復期在棟日数、総入院日数、入棟時の上肢手指下肢Brunnstrom stage(BRS)を用います。方法は、FIMの点数を用いて重症患者と中等症・軽症患者に分け、各群のFIMの点数改善までの日数やその要因についてデータ比較や関連を調査します。

これらの研究は2022年11月～2024年12月の間に実施します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、疾患、身体機能の情報、生活状況の情報 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

(倫理様式 2-2-1)

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部

研究責任者 門脇一樹

住 所：群馬県伊勢崎市太田町 366

T E L : 0270-27-8813 F A X : 0270-24-3359

-----以上